

III 国際交流

国際交流

岩本由美、佐々木秀美、中村哲

2022 年度本学部の国際交流委員会の活動は、コロナ禍の続く中、対面とオンライン併用のハイブリッド活動が中心となり進められた。

2022 年 10 月 20-21 日に本学部が理事校を務める世界災害看護学会（World Society of Disaster Nursing）が台湾で第 7 回学術集会（The 7th International Research Conference of World Society of Disaster Nursing (WSDN)）が開催された。本学からは代表理事の佐々木と岩本が理事会参加予定であったが、コロナ禍のため、メール会議で参加した。同時期の 10 月 18-19 日で世界看護科学学会（The 7th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science (WANS)）も開催されており、WEB での参加が可能であった。それぞれの学術集会には、示説で採択された本学の「コロナ禍での ITC 活用の教育の取り組み」（WANS）や「コロナ禍における学生主導の災害看護演習」（WSDN）の演題を発表することができた。

米国レバノンブロンクススペシャルケアセンターとのオンライン交流は、計画できるよう連絡を試みたが、スペシャルケアセンターの WIFI 環境が難しく、音声で挨拶はできたが、企画・計画実施には至らなかった。次年度、どのような交流ができるか再度検討する必要がある。

フィリピン国パーペチュアルヘルプ大学への短期語学研修について、説明会には看護学部から学部生 4 名、大学院生 1 名が参加したが、実習時期等、研修時期を合わせることが難しく、実際に語学研修を希望する学生はいなかったため、実施されなかった。今後、学生の希望時期や参加可能な時期を検討することが必要である。しかし、時期的に円安の状況で、海外に出向くよりも、国内で来日中の方々と異文化交流が図れることを検討することも必要であろう。

2022 年 9 月には、2018 年から大学間協定を結んでいるドイツ国カトリック応用科学大学（ドイツ（ケルン市）から教員 2 名、ホフ、タニア教授（心理学）とストレーター、ビルギッタ教授（精神医学）、そして、本学人間健康学部からは大塚文教授（社会福祉学）が阿賀キャンパス 3 号館 2 階 205 教室において、対面とオンラインで、講師を務め、ハイブリッド型国際教育交流事業（資料 1）を行うことができた。国際交流センター、看護学研究科、看護学部、阿賀キャンパス総務・学生部の全面的なサポートのもと、ハイブリッドで開催をしたことで、コロナ禍における国際交流活動を推進した意義は大きい。参加者は 51 名（対面 41 名、オンライン 10 名）であった。内訳は、学部生 30 名（全員対面）、大学院生 4 名（対面 2 名、オンライン 2 名）、教職員 17 名（対面 9 名、オンライン 8 名）であった。

来学されたドイツ国カトリック応用科学大学教員 2 名より「貴重な時間を広島文化学園大学の学長、研究科長をはじめ、多くの学生、大学院生、教職員の皆様と共有できて大変光栄です。将来ぜひドイツ国ケルン市にお越しください。またの機会に対人職を目指す大学生・大学院生の国際交流を計画したいので、帰国後、カトリック大学の学長に相談したいと思います。5 年ごとの大学間協定の見直しはありますが、今後とも交流を継続したいので、忘れないように確認しまし

よう。私たちのために貴重な場を作ってください本当にありがとうございました。」とお礼の言葉をいただいた。

参加した学部生 30 人中 21 名が交流会終了後に回答したアンケート結果（回収率 70%）を以下に述べる。1. 国際教育交流会はとても役に立った（11 名, 52.4%）どちらかという役に立った（10 名, 47.6%）。2. 機会があればドイツの大学生と交流したいと思う（15 名, 71.4%）, わからない（5 名, 23.8%）, したいと思わない（1 名, 4.8%）。英語でコミュニケーションを取ることにとっても興味をもっている（8 名, 38.1%）, まあまあ興味を持っている（11 名, 52.4%）, どちらでもない（2 名, 9.5%）。次回への改善点としては、翻訳資料は分かりやすかったが、英語の授業は難しかった、通訳してほしい、もう少し内容を少なくして時間をかけて進めてほしい等の意見があった。次回、多くの学部生が参加する場合は、事前学習や通訳補助も検討する。

（資料 1）

9/29 ドイツ国カトリック応用科学大学との国際教育交流会

広島文化学園大学・短期大学は、平成 30 年に MOU を締結したドイツ ノルトライン＝ヴェストファーレン州 カトリック大学（カトリック応用科学大学：ドイツ国ケルン市）から教員 2 名を迎え、国際教育交流事業を実施します。本学の学部生、大学院生、教職員がグローバルマインドを修得するために英語の講義に触れ、ドイツ国と日本の福祉の現状や介入について学ぶことを目的としています。

【開催概要】

教育講演会・意見交換

日 時：令和 4 年 9 月 29 日（木）15：00～18：00

場 所：広島文化学園大学 ハイブリッド型

呉・阿賀キャンパス 205 教室（呉市阿賀南二丁目 10-3）

オンライン参加の場合:ZOOM

主 催：国際交流センター

共 催：看護学研究科

講 師：カトリック応用科学大学教員、広島文化学園大学教員

参加者：カトリック応用科学大学教員 2 名、広島文化学園大学教員・大学院生・学生

（対面及びオンラインで実施）

内 容：英語での国際教育交流 各講演 30 分後質疑応答 15-20 分

（司会進行：中村哲）

講演 1. VR と認知症ケア：実践的・倫理的配慮、胎児性アルコール

（カトリック応用科学大学教授 ストレーター先生）

講演 2. スペクトラム（FASD）：ソーシャルワークと医療による予防の可能性

（カトリック応用科学大学教授 ホフ先生）

講演 3. 自己決定困難で身寄りのない患者への支援についての講演と意見交換

（広島文化学園大学人間健康学部教授 大塚文先生）

問い合わせ：阿賀キャンパス 国際交流委員長 岩本由美